

仲卸業者の経営状況

平成30年3月

東京都中央卸売市場

はじめに

市場流通において、卸売業者とともに中心的な役割を担っている仲卸業者の経営は、景気の低迷による需要の減退に加え、顧客である専門小売店の減少、多様な顧客ニーズへの対応、市場外流通の増大など、生鮮食料品等の流通を取り巻く急速な変化の中で、さらに厳しさが増しています。

本書は、平成28年の貸借対照表や損益計算書を含む事業報告書の集計を行うことにより、仲卸業者の現状を明らかにすることを目的に作成しました。

本書が仲卸業者のみなさんの経営改善や経営基盤強化への主体的な取組に活用されることを期待しています。

平成30年3月

東京都中央卸売市場 事業部 業務課

目 次

調査要領	1
1 仲卸業者数の推移	4
2 営業成績の状況	6
(1) 売上高の増減	
(2) 売上高の規模別業者数	
(3) 売上高の規模別・部類別業者数	
(4) 1社当たりの売上高	
(5) 売上総利益率の変化	
(6) 営業損益の状況	
(7) 営業損益の状況（2期間）	
(8) 営業利益率の変化	
(9) 販売費及び一般管理費の増減	
(10) 人件費の増減	
(11) 人件費比率の変化	
(12) 経常損益の状況	
(13) 経常損益の状況（2期間）	
(14) 経常利益率の変化	
(15) 従事員1人当たり売上高	
(16) 従事員1人当たり売上総利益	
(17) 従事員1人当たり人件費	
3 財務内容の状況	23
(1) 流動比率の変化	
(2) 流動比率の比率別業者数	
(3) 売掛債権回転日数の増減	
(4) 買掛債務回転日数の増減	
(5) 借入金比率の変化	
(6) 借入金比率の比率別業者数	
(7) 自己資本比率の変化	
(8) 自己資本比率の比率別業者数	
(9) 自己資本比率の状況（2期間）	
(10) 財務基準抵触業者数	
4 各部類別・市場別の状況 ー平成28年集計業者ー	33
(1) 水産物部	
(2) 青果部	
(3) 花き部	
(4) 食肉部	
5 データ編	41
(1) 仲卸業者財務諸表（平成28年集計業者）	
(2) 経営分析表（平成24～28年）	
参考資料 ①・②	

調査要領

(1) 調査対象

法人の仲卸業者で、事業報告書及びその添付資料の提出があったものを対象とした。

なお、2カ年の比較によって検証を行っている資料については、前年に提出された事業報告書と対比しており、前年に事業報告書が提出されていなかった分については「不明」と表示した。

<参考>

サンプル数

	サンプル	全 体		
		法人	個人	合計
合 計	958	1,015	44	1,059
水産物部	586	617	38	655
青果部	305	327	6	333
花き部	42	46	0	46
食肉部	25	25	0	25

(2) 調査方法

平成29年9月までに提出された仲卸業者の事業報告書（平成28年1月1日から同年12月31日までに終了した事業期間に係わるもの）をもとに、企業会計原則等に基づき修正し集計した。

ただし、大田、板橋、世田谷、北足立、葛西の各市場には他市場の仲卸業者の支店があり、それらは本店の属する市場で集計している。

(3) 集計方法

実数・比率とも加重平均（各業者の数字を合算して業者数で割った数値）により算出した。

(4) 区分

水産物部については、各市場別及び業種別とした。業種区分は築地市場の場

合は、鮮魚、大物、特種物、海老、蛸、北洋冷凍、煉製品、合物、塩干物の9区分とした。各区分にまたがった取扱いを行っているものは、最も高い割合の取扱品に属する業種に入れた。

築地市場においては全般的に専門化の度が高く、取扱区分も比較的明瞭であるが、他市場では取扱品が総合化する傾向があり、明確な区分は難しい。このため、それぞれの市場の特殊性を勘案し、足立市場は、鮮魚、大物、特種物、塩干・加工品類の4区分、大田市場は、鮮魚・大物・特種物と冷凍・塩干・加工品類を別区分として2区分とした。なお、各市場とも佃煮は取扱量が少ないので、塩干物に含めた。

青果部については、各市場別、取扱品目別とし、原則として野菜、果実の2区分としたが、築地、大田市場では、野菜・果実の双方を取扱い、かつ、いずれの割合も30%を超える業者を野菜・果実として別区分とした。多摩ニュータウン市場は、業者数が少ないため、野菜・果実の1区分とした。

(5) その他の注意

支店の決算数値が本店決算に合算されているため、本店の属する市場の諸数値は必ずしも当該市場全体の特性を表していない。